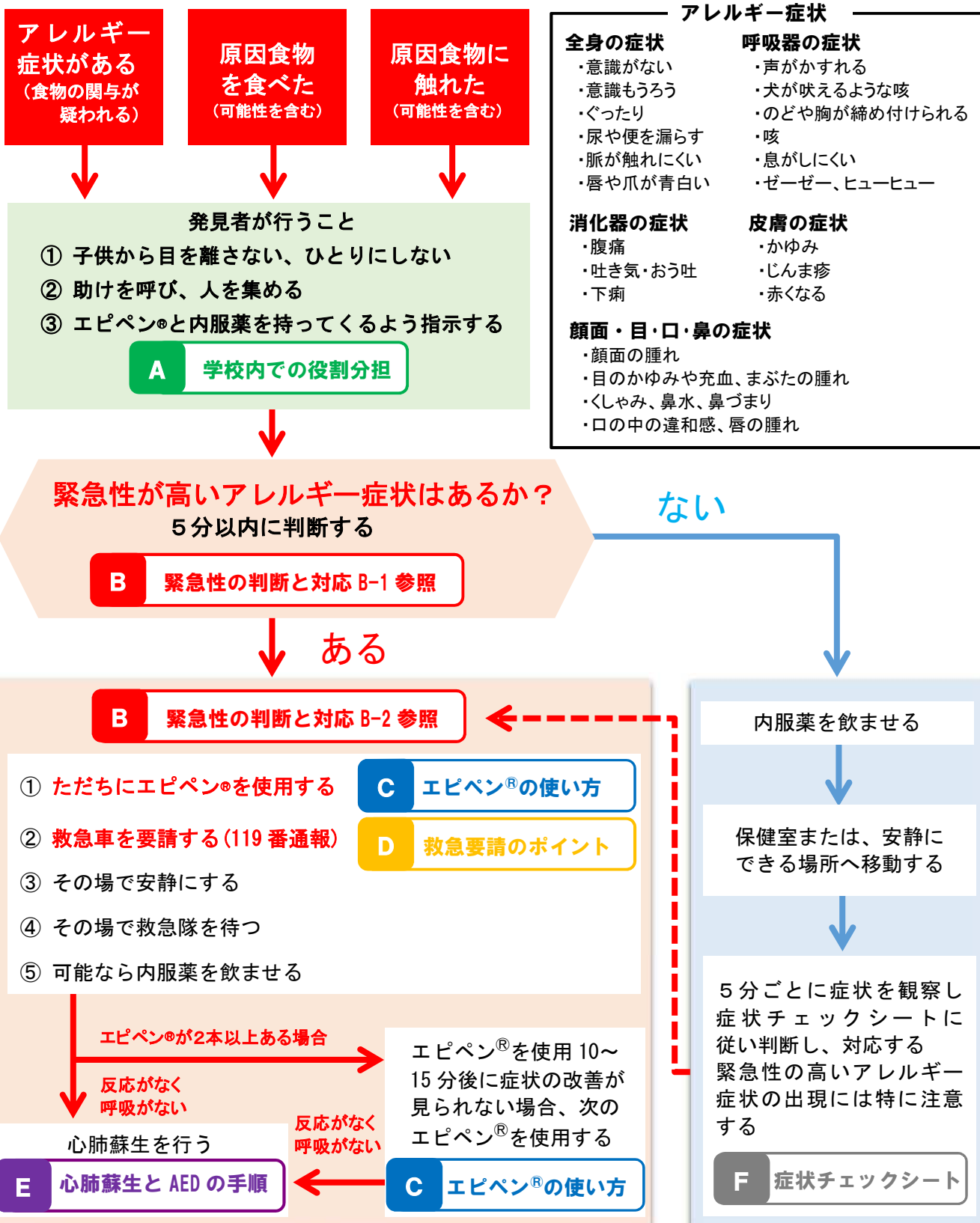


アレルギー症状への対応の手順



A 学校内での役割分担

◆各々の役割分担を確認し事前にシミュレーションを行う

管理・監督者(園長・校長など)

- 現場に到着次第、リーダーとなる
- それぞれの役割の確認および指示
- エピペン[®]の使用または介助
- 心肺蘇生やAEDの使用

発見者「観察」

- 子供から離れず観察
- 助けを呼び、人を集める(大声または、他の子供に呼びに行かせる)
- 教員・職員 a、b に「準備」「連絡」を依頼
- 管理者が到着するまでリーダー代行となる
- エピペン[®]の使用または介助
- 薬の内服介助
- 心肺蘇生やAEDの使用

教員・職員 a 「準備」

- 「食物アレルギー緊急時対応マニュアル」を持ってくる
- エピペン[®]の準備
- AEDの準備
- 内服薬の準備
- エピペン[®]の使用または介助
- 心肺蘇生やAEDの使用

教員・職員 b 「連絡」

- 救急車を要請する(119番通報)
- 管理者を呼ぶ
- 保護者への連絡
- さらに人を集める(校内放送)

教員・職員 c 「記録」

- 観察を開始した時刻を記録
- エピペン[®]を使用した時刻を記録
- 内服薬を飲んだ時刻を記録
- 5分ごとに症状を記録

教員・職員 d ~ f 「その他」

- 他の子供への対応
- 救急車の誘導
- エピペン[®]の使用または介助
- 心肺蘇生やAEDの使用

B

緊急性の判断と対応

◆アレルギー症状があったら 5 分以内に判断する！

◆迷ったらエピペン[®]を打つ！ ただちに 119 番通報をする！

B-1 緊急性が高いアレルギー症状

【全身の症状】

- ぐったり
- 意識もうろう
- 尿や便を漏らす
- 脈が触れにくいまたは不規則
- 唇や爪が青白い

【呼吸器の症状】

- のどや胸が締め付けられる
 - 声がかすれる
 - 犬が吠えるような咳
 - 息がしにくい
 - 持続する強い咳き込み
 - ゼーゼーする呼吸
- (ぜん息発作と区別できない場合を含む)

【消化器の症状】

- 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み
- 繰り返し吐き続ける

1 つでもあてはまる場合

ない場合

B-2 緊急性が高いアレルギー症状への対応

①ただちにエピペン[®]を使用する！

C エピペン[®]の使い方

②救急車を要請する(119 番通報)

D 救急要請のポイント

③その場で安静にする(下記の体位を参照)
立たせたり、歩かせたりしない！

④その場で救急隊を待つ

⑤可能なら内服薬を飲ませる

◆エピペン[®]を使用し 10~15 分後に症状の改善が見られない場合は、
次のエピペン[®]を使用する(2 本以上ある場合)

◆反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う

E 心肺蘇生と AED の手順

内服薬を飲ませる

保健室または、安静にできる
場所へ移動する

5 分ごとに症状を観察し症状
チェックシートに従い判断
し、対応する緊急性の高い
アレルギー症状の出現には
特に注意する

F 症状チェックシート

安静を保つ体位

ぐったり、意識もうろうの場合



血圧が低下している可能性があるため仰向けで足を 15~30cm 高くする

吐き気、おう吐がある場合



おう吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

呼吸が苦しく仰向けになれない場合



呼吸を楽にするため、上半身を起こし後ろに寄りかからせる

C

エピペン[®]の使い方

◆それぞれの動作を声に出し、確認しながら行う

① ケースから取り出す



ケースのカバーキャップを開け
エピペン[®]を取り出す

② しっかり握る



オレンジ色のニードルカバーを
下に向け、利き手で持つ
“グー”で握る！

③ 安全キャップを外す



青い安全キャップを外す

④ 太ももに注射する



太ももの外側に、エピペン[®]の先端
(オレンジ色の部分)を軽くあて、
“カチッ”と音がするまで強く押し
あてそのまま5つ数える
注射した後すぐに抜かない！
押しつけたまま5つ数える！

⑤ 確認する



使用前 使用後

エピペン[®]を太ももから離し
オレンジ色のニードルカバーが
伸びているか確認する

伸びていない場合は「④に戻る」

⑥ マッサージする



打った部位を10秒間、
マッサージする

介助者がいる場合



介助者は、子供の太ももの付け根と膝をしっかり抑え、動かないように固定する

注射する部位

- ・衣服の上から、打つことができる
- ・太ももの付け根と膝の中央部で、かつ真ん中(A)よりやや外側に注射する

仰向けの場合



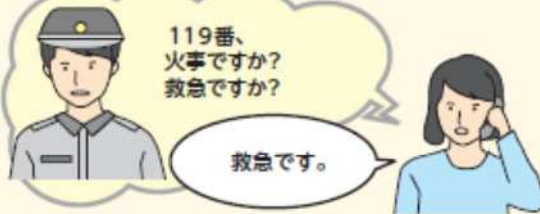
座位の場合



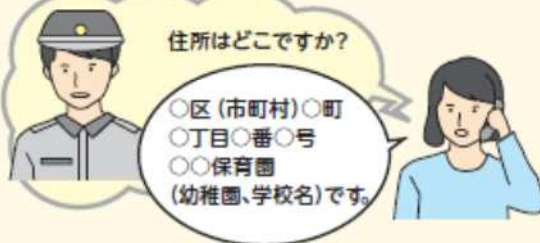
D

救急要請（119番通報）のポイント

◆あわてず、ゆっくり、正確に情報を伝える

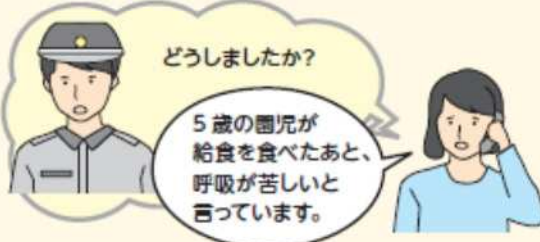


①救急であることを伝える



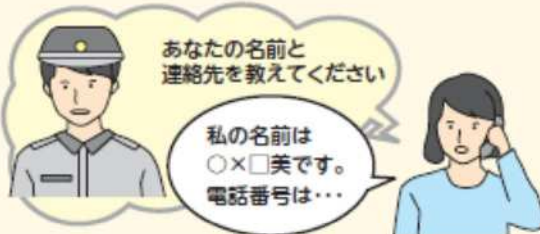
②救急車に来てほしい住所を伝える

住所、施設名をあらかじめ記載しておく



③「いつ、だれが、どうして、現在どのよ
うな状態なのか」をわかる範囲で伝える

エビペン®の処方やエビペン®の使用の
有無を伝える



④通報している人の氏名と連絡先を伝える

119番通報後も連絡可能な電話番号を伝える

※向かっている救急隊から、その後の状態確認等のため電話がかかってくることもある

- ・通報時に伝えた連絡先の電話は、常につながるようにしておく
- ・その際、救急隊が到着するまでの応急手当の方法などを必要に応じて聞く

E

心肺蘇生と AED の手順

- ◆強く、速く、絶え間ない胸骨圧迫を！
- ◆救急隊に引き継ぐまで、または子供に普段通りの呼吸や目的のある仕草が認められるまで心肺蘇生を続ける

①反応の確認

肩を叩いて大声で呼びかける
乳幼児では足の裏を叩いて呼びかける

反応がない

②通報

119 番通報と AED の手配を頼む

③呼吸の確認

10 秒以内で胸とお腹の動きを見る

普段通りの呼吸をしていない

※普段通りの呼吸をしているようなら、
観察を続けながら救急隊の到着を待つ

④必ず胸骨圧迫！可能なら人工呼吸！

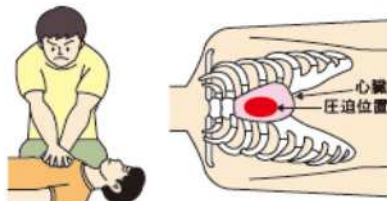
30 : 2

ただちに胸骨圧迫を開始する
人工呼吸の準備ができ次第、可能なら人工呼吸を行う

⑤AED のメッセージに従う

電源ボタンを押す
パッドを貼り、AED の自動解析に従う

胸骨圧迫のポイント



- ◎強く (胸の厚さの約 1/3)
- ◎速く (100~120 回/分)
- ◎絶え間なく (中断を最小限にする)
- ◎圧迫する位置は「胸の真ん中」

人工呼吸のポイント



- 息を吹き込む際
- ◎約 1 秒かけて
- ◎胸の上がりが見える程度

AED 装着のポイント



- ◎電極パッドを貼り付ける時も、できるだけ胸骨圧迫を継続する
- ◎電極パッドを貼る位置が汗などで濡れていたらタオル等でふき取る
- ◎6 歳くらいまでは小児用電極パッドを貼る。なければ成人用電極パッドで代用する

心電図解析のポイント



- ◎心電図解析中は、子供に触れないように周囲に声をかける

ショックのポイント



- ◎誰も子供に触れていないことを確認したら、点滅しているショックボタンを押す

F 症状チェックシート

◆症状は急激に変化することがあるため、5分ごとに、注意深く症状を観察する

◆ の症状が1つでもあてはまる場合、エピペン®を使用する
(内服薬を飲んだ後にエピペン®を使用しても問題ない)

観察を開始した時刻 (時 分)	エピペン®を使用した時刻 (時 分)
内服した時刻 (時 分)	

全身の症状	<input type="checkbox"/> ぐったり <input type="checkbox"/> 意識もうろう <input type="checkbox"/> 尿や便を漏らす <input type="checkbox"/> 脈が触れにくいまたは不規則 <input type="checkbox"/> 唇や爪が青白い
--------------	--

呼吸器の症状	<input type="checkbox"/> のどや胸が締め付けられる <input type="checkbox"/> 声がかすれる <input type="checkbox"/> 犬が吠えるような咳 <input type="checkbox"/> 息がしにくい <input type="checkbox"/> 持続する強い咳き込み <input type="checkbox"/> ゼーゼーする呼吸	<input type="checkbox"/> 数回の軽い咳
---------------	---	---------------------------------

消化器の症状	<input type="checkbox"/> 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み <input type="checkbox"/> 繰り返し吐き続ける	<input type="checkbox"/> 中等度のお腹の痛み <input type="checkbox"/> 1~2回のおう吐 <input type="checkbox"/> 1~2回の下痢	<input type="checkbox"/> 軽いお腹の痛み(がまんできる) <input type="checkbox"/> 吐き気
---------------	---	---	--

目・口・鼻・顔面の症状	<input type="checkbox"/> 顔全体の腫れ <input type="checkbox"/> まぶたの腫れ	<input type="checkbox"/> 目のかゆみ、充血 <input type="checkbox"/> 口の中の違和感、唇の腫れ <input type="checkbox"/> くしゃみ、鼻水、鼻づまり
--------------------	--	---

皮膚の症状	<input type="checkbox"/> 強いかゆみ <input type="checkbox"/> 全身に広がるじんま疹 <input type="checkbox"/> 全身が真っ赤	<input type="checkbox"/> 軽度のかゆみ <input type="checkbox"/> 数個のじんま疹 <input type="checkbox"/> 部分的な赤み
--------------	--	--

上記の症状が1つでもあてはまる場合

1つでもあてはまる場合

1つでもあてはまる場合

- ①ただちにエピペン®を使用する
- ②救急車を要請する(119番通報)
- ③その場で安静を保つ(立たせたり、歩かせたりしない)
- ④その場で救急隊を待つ
- ⑤可能なら内服薬を飲ませる

B 緊急性の判断と対応 B-2参照

ただちに救急車で医療機関へ搬送

- ①内服薬を飲ませ、エピペン®を準備する
- ②速やかに医療機関を受診する(救急車の要請も考慮)
- ③医療機関に到着するまで、5分ごとに症状の変化を観察し、 の症状が1つでもあてはまる場合、エピペン®を使用する

速やかに医療機関を受診

- ①内服薬を飲ませる
- ②少なくとも1時間は5分ごとに症状の変化を観察し、症状の改善がみられない場合は医療機関を受診する

安静にし注意深く経過観察

<緊急時対応の重要ポイント>

- ① いざという時、速やかに対応できるよう普段から準備をしておく。
 - ・ **A** 学校内での役割分担 **F** 症状チェックシートの2枚を並べて印刷し、掲示しておく。
 - ・ 保健室に、アナフィラキシーを想定した救急セットを用意しておく。その中には、アレルギー緊急時個別対応票（様式4）や筆記用具も備えておく。
- ② 症状が急激に変化することがあるため、5分ごとに、注意深く症状を観察する。
- ③ エピペン®を使うか迷った時は、使用する。
- ④ AEDを使用した場合は、電極パッドをはがさず、電源も入れたままの状態で見守り続け、救急隊に引き継ぐ。
- ⑤ 救急車に教職員が同乗し、使用したエピペン®、学校生活管理指導表のコピー、アレルギー緊急時個別対応票（様式4）などの経過を記録した用紙のコピー2部（救急隊・病院）を持って行く。

<参考資料>

- ①「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」(公益財団法人日本学校保健会)
 - ②「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン要約版」(公益財団法人日本学校保健会)
<http://www.gakkohoken.jp/books/archives/51> (日本学校保健会発行物)
 - ③「学校給食における食物アレルギー対応指針」(文部科学省)
 - ④「アレルギー疾患対応資料(DVD)映像資料及び研修資料」(文部科学省)
http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/syokuiku/1355536.htm
- 「日本小児アレルギー学会ホームページ」<http://www.jspaci.jp/>

